

保護者の皆様

令和8年10月5日

川崎市立宮崎中学校
校長 栗原 雅明

令和8年度 川崎市学習状況調査、全国学力・学習状況調査 結果の概要と今後の取組について

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。4月14日（火）に行いました1～3年生対象の川崎市学習状況調査の結果と、4月20日（月）、23日（木）、30日（木）に行いました3年生対象の全国学力・学習状況調査の結果をご報告します。本校では学校の教育目標（育成を目指す資質・能力、目指す生徒像等）の実現に向け、日々の教育活動に取り組んでおり、今後は本調査結果を生かした取組をさらに進めてまいります。なお、本調査によって測定できるのは生徒の実態の一部であり、学校における教育活動の一側面です。本資料につきましては、本校の教育活動の成果と課題を把握するための一つの指標としてお考えください。また取組の様子は、今後の学校だよりや学年だより、学校説明会等でもお伝えします。

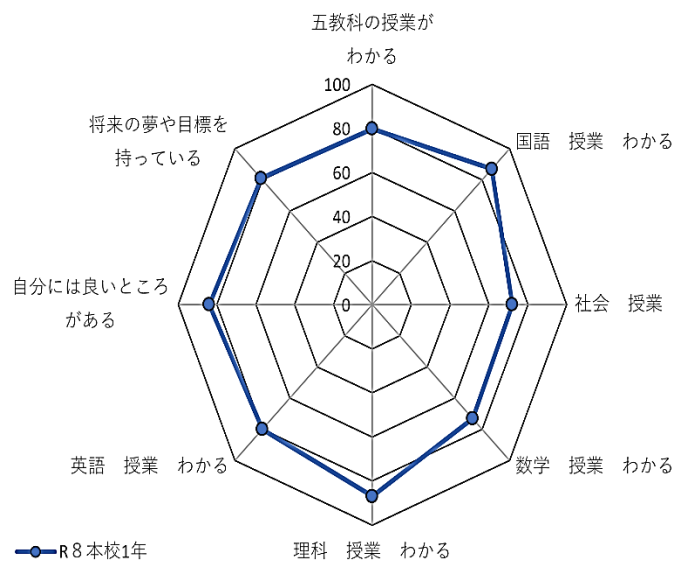
学校の教育目標

1. 理想を高め、自主自律ある人間の育成
2. 勤労を尊び、実践力のある人間の育成
3. 豊かな情操を身につけた人間の育成
4. 互いの人権を尊重できる民主的人間の育成
5. 国際的な視野に立ち、互いの文化を尊重できる人間の育成

令和8年度 宮崎中学校の生徒に身につけさせたい資質・能力

- 実生活に活用できる基礎的・基本的な知識・技能
- 身につけた知識を活用して自ら考え、表現する力
- 主体的、協働的に探究（求）しようとする姿勢

令和8年度 川崎市学習状況調査 1年生



	五教科 知識・技能	五教科 思考・判断・表現
R8 本校1年	72%	59%
R8 全体1年	71%	55%

高い学力に加え学びへの強い自信をもっています。自己肯定感についても「自分には良いところがある」割合や、「将来の夢や目標を持っている」割合も高く、前向きな意欲と互いを尊重する温かな人間関係が大きな強みです。GIGA 端末を他者との考えの共有に役立てる姿勢も強いことが分かりました。

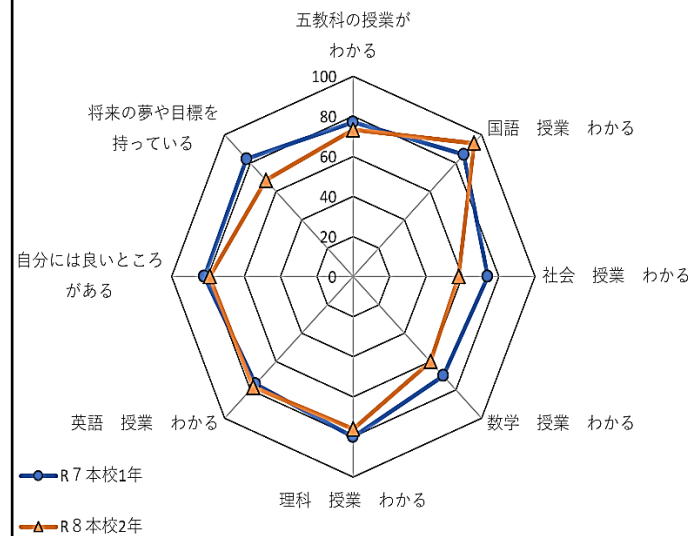
今後の取組①「基礎・基本」の徹底と定着

学習の土台を確実にするため、授業内で生徒一人ひとりの理解度を細かく見取り、スモールステップの手法を取り入れて繰り返し指導します。

今後の取組② 目的を明確にした ICT の有効活用

本学年の強みである ICT 活用能力をさらに伸ばすため、端末を単なる道具ではなく、「思考を深め、表現を豊かにするための手段」として位置づけます。それぞれの授業のねらいに合わせ、友達のことを参考にしたり、自分の意見を整理したりするために最も効果的な活用方法を検討し、主体的・対話的で深い学びを推進します。

令和8年度 川崎市学習状況調査 2年生



	五教科 知識・技能	五教科 思考・判断・表現
R8 本校2年	63%	50%
R8 全体2年	62%	47%

学習内容の発展に伴い、理解の定着に差が生じやすい時期ですが、学習に対する自己効力感や達成感がうかがえます。また、授業の理解や定着に課題を感じている生徒の割合が高まる傾向にありますが、生徒が自身の学習状況を客観的に把握できている点は、今後の改善に向けた大きな強みと考えられます。

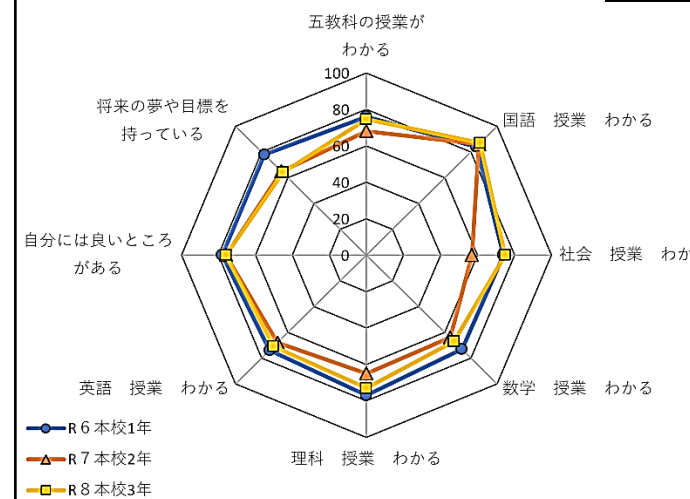
今後の取組① 個に応じた学びと協働的な学びの充実

ICT 等を活用し、生徒自身が自分に合ったペースで取り組む学びを支え、基礎的・基本的な知識・技能の確かな定着を図ります。さらに、教室での対話やグループワークを通じた「協働的な学び」を組み合わせ、主体的に探究する姿勢を育みます。

今後の取組② 将来の目標を描くキャリア教育推進

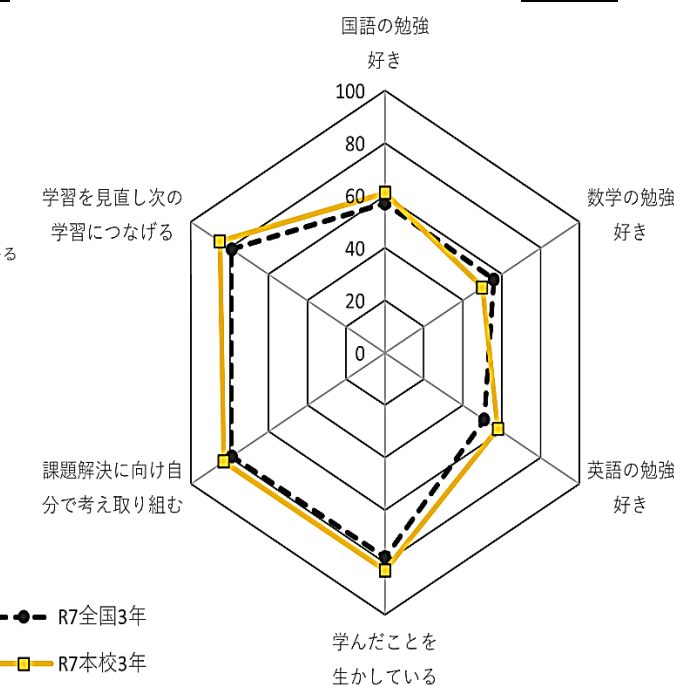
将来の夢や目標をもつ生徒の割合に課題がみられることを受け、日々の学びと社会とのつながりを実感できるキャリア教育を推進します。自身の適性などを考え、進路を切り開く意欲と能力を育みます。

令和8年度 川崎市学習状況調査 3年生



	五教科 知識・技能	五教科 思考・判断・表現
R8 本校3年	64%	56%
R8 全体3年	57%	48%

全国学力・学習状況調査 3年生



市調査の結果から、安定した学力を維持していること、また全国調査の結果からは、「学ぶこと」に前向きに取り組んでいることが分かりました。単に教科が「好き」であるだけでなく、実際の学びに結びつける態度も育っています。「課題解決に向けて自分で」取り組む、「学んだことを生かしている」割合は高く、興味のあることに向き合うこと、知識を実社会と結びつけることの楽しさを感じています。

今後の取組① 納得感のある進路選択を支える「対話」

進路という現実を前に、将来の夢や目標に迷いを感じている生徒が増えている現状を真摯に受け止め、教員と生徒、あるいは生徒同士の「対話」を重視した指導を行います。

今後の取組② 「わかる」実感を成果に繋げる学習支援

具体例や評価基準を明示して学びの見通しを持たせ、「わかる」実感を図ります。正解だけでなく、「考えを共有しようとする行動」を促進することで、認め合う学年の強みを活かした学習支援を行います。